

(国語科)

単元を貫く言語活動の充実により言語力を高める
～伝え合う活動を通して～

大阪市立金塚小学校 研究部

1. 研究主題設定にあたって

学習指導要領では、「児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とある。人は、言語を用いて思考・判断・表現することで他者と関わり合っている。その能力を「言語力」という。自分と他者を大切にしながら納得のいく人生を歩むために、言語力の向上が不可欠である。

言語力を向上させるには、一つの単元で単に知識や技能を習得させるだけでなく、何のために単元を学習し、学習することによりどんな力をつけるのかを明確にして、指導する必要があると考えた。いわゆる、「単元を貫く言語活動」を取り入れることにより、より子どもは「できた」という実感を得、学びの楽しさや大切さ、意義を感じ、主体的に学ぶようになると考え、研究主題を「単元を貫く言語活動の充実により言語力を高める」として研究に取り組むことにした。

過去2年間は、読む能力を育てる研究実践を行った。成果として、授業での交流活動では、子ども同士が教え合い、学び合うようになり、学習をふり返ったり、相違点に気づいたり、新しい発見をしたりして、その後の学習に活かすことができるようになってきた。読む能力は徐々に成果が表れてきている。課題として、子どもにどんな力をつけるのかをさらに絞り込むとともに、交流活動をより活性化するための工夫が必要であることがわかった。評価についても、さらに検討する必要がある。そこで、読む能力を育てる研究をさらに発展させるべく、本年度は物語文・説明文にこだわらず、「話す・聞く能力」にもつながる「伝え合うこと」を意識した交流活動に主眼を置いて進めることにした。伝え合うことを意識させることで、「自分の考えを直接相手に分かりやすく話す」「相手の考えをしっかりと聞くことで自分の考えとの相違点を見つける」「話し合っているうちに自分の考えの矛盾に気づき修正できる」など、一層読みを深めることができると考える。それによって、さらなる学びを自ら求めようとする「主体的に学習に取り組む態度」を養うとともに、「話す・聞く」能力をも高められると考え、副題に「伝え合う活動を通して」と設定し、研究を進めることにした。

2. 研究の視点

(1) 付けたい力を分析し、適した言語活動を工夫する。

○子どもに付けたい力が明確か。焦点化されているか。

○付けたい力をつけるのにふさわしい言語活動が設定されているか。

○付けたい力につながる児童の実態を把握しているか。

(2) 交流の仕方を工夫し、交流の場を設定する。

○交流前に自分の考えを明確に持たせるようにしているか。

○交流の観点は適切か。

○交流の形態（ペア・トリオ、グループ、クラス全体など）は適切か。

○自分の考えが聞き手に伝わる話し方や自分の考えと比べた聞き方をしているか。

(3) 評価の在り方を工夫する。

○付けたい力がついているかを指導者がどのように評価するか。

○学び（力がついたこと）を子どもが意識できる評価できているか。

3. 本年度の成果

(1) 成果

①付けたい力をつけるための指導計画の工夫

「単に教材を読むのではなく、教材で力をつける」ということを指導者が意識することで、何を習得させ活用させるのかが明確な単元計画になっており、単元展開が全体として統一されてきた。子どもたちも、何のために学習をしているのか、どんな力が身につくのかがわかるため、明確に目的を持って学習に取り組んでおり、主体的な学習になってきている。

②ペア・トリオ交流の有効性

ペア・トリオ交流により、全ての子が自らの考えを話し、友だちの考えを聞くことができる。その中で、説明する、同意を示す、反論する、質問する、指摘するなどの活動を、頻繁に行うことができ、自分の考えが広がったり、深まったりする機会が格段に増えた。それにより、交流のよさを感じ、意欲的に伝え合うようにもなった。また、その積み重ねにより、コミュニケーション力の向上がみられた。

③評価の工夫

子ども同士が相互評価することに重きを置いて進めた。学習をふり返ったり、互いの相違点に気づいたり、新しい発見をしたりすることができ、その後の学習に活かすことができた。また、指導者は、活動の様子を観察したり、ワークシートやノートなど成果物を点検したりしている。成果物によい点や改善点を書き込んだり、指導者が必要と思う子どもに個別に指導したり、また評価の結果次第で指導計画の展開を修正したりして、その後の学習をよりよいものにするようにしている。

(2) 今後の課題

●力を付けるためのめあて・発問

●交流の効果的な位置づけ・系統的指導

●相互評価のより一層の導入 評価規準の明確化